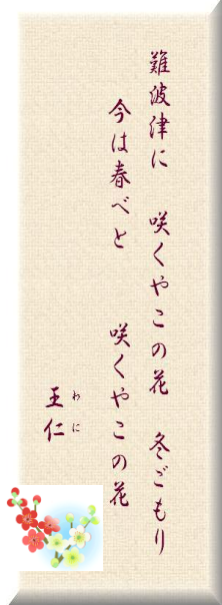


彩の歳時記

平成二十一年 一月



難波津に 咲くやこの花 冬ごもり
今は春べと 咲くやこの花

王仁

「難波津にこの花が咲いている。冬籠りしていたけど、今、春になったと咲いているよ。」
「難波津の歌」は古今集の仮名序の中に「手習ふ人のはじめにもしける」書道の初学に用いられたと書かれています。徳島県の観音寺遺跡から万葉仮名で「奈尔波ツ尔昨久矢己乃波奈」と書かれた七世紀頃の

(木簡)が出土、平安時代にはこの歌は「誰でも知っている歌」の代名詞でした。因みに、この花と梅の花のこと。作者・王仁は百濟から渡来し、漢字・儒教を伝えたときされる伝説的な人物で、日本書紀に王仁、古事記には和邇吉師(わにきし)と記されています。

一月の異称

睦月 正月、一家がなごやかに睦みあつて日を送る月。「生む月」の説もある。

一月の暦

一日 元旦 午前五時三十分、天皇が束帯(そくたい)公家の正装を召され、伊勢神宮の皇大神宮・豊受大神宮に向い拝礼した後、四方の諸神を拝し(四方拝(しほうはい))一年間の豊作と無病息災を祈る。
二日 初夢・書初め

★・第八十四回東京箱根間往復大学駅伝競走

五日 小寒(しょうかん)

冬至から十五日目。寒の入り。節分(立春の前日)までが寒の内、厳寒の時期。

七日 七草

前夜に「七草なずな唐土の鳥が渡らぬ先に合わせてトントントン」という

「難(はやし)歌」を歌いながら包丁で叩き、当日の朝に粥(かゆ)に入れ、一年の邪気を払う。雑歌は農作物の害虫を追い払う「鳥追い歌」に由来。

十日 小倉百人一首競技かるた・第五十五期名人戦・五十三期クイーン位決定戦が大津市の近江神宮で行われる。冒頭の「難波津の歌」は指定序歌で競技の始めに詠み上げられる。

十一日 鏡開き 鏡は古代より神聖な祭祀具で年神に供えた鏡餅を食べ、一家の円満を願う。

十二日 成人の日(第二月曜日) 大人になったことを自覚し自ら生き抜こうとする青年を祝い上げます。

十三日 左義長 とんど、どんと、さいと焼、飾り焼きなどと呼ばれる。松飾りなどを焼き、その火で焼いた餅を食べると一年、無病息災で過ごせるといわれる。

十五日 小正月 元日の大正月に対してこう呼ぶ。本来この日までが松の内だが、近年は七草まで。

二十日 大寒(だいかん)

厳寒の最中だが春の兆しも。「二十日正月」で正月行事の節目で祝納めの日。

二十一日 初大師(西新井・川崎大師など) 大師は普通「弘法大師空海」を指すが関東の

三大師(厄除け大師)は弘法大師ではなく元三大師(良源)の事を指す。

二十二日 ジャズの日 因み、二十四日に日比谷公会堂大ホール(2千名収容の日本ジャズ発祥の地)に於いて、第九回JAZZ DAY制定記念コンサートが催される。



二十五日、初天神(落語の演目で有名・北野天満宮・湯島天神など)学問の神・天神様(菅原道真)を祀ることから受験生やその家族が多く願掛けに参拝する。

二十八日 初不動(成田山など)日野市高幡不動のだるま市は有名。宮本武蔵ゆかりの京都狸谷山不動院ではガン封じの笹酒が接待される。

一月の歌

白い想い出 昭和三十八年



詞・曲の山崎唯 【1933〜1990】は『渡辺晋とシックス・ジョーンズ』のピアニストとしてデビュー。人形劇『トッポ・ジーゴ』では、おかしな声で話題を呼んだ。妻の久里千春との芸能活動も多かった。

雪が降ってきた
ほんの少しだけれど
私の胸の中に
積もりそうな雪だった
幸せを失くした
黒い心の中に
冷たく寂しい
白い手が忍び寄る
雪が融けてきた
ほんの少しだけれど
私の胸の中に
残りそうな雪だった
★灰色の雲が
私に教えてくれた
暖かい日差しが
すぐそこに来ていると
★ 繰り返し

